

春季法人ボランティア養成セミナー（オンライン）

期 日：5月21日（土）～ 5月22日（日）
参加者：高校生2名 大学生29名
講 師：高山市社会福祉協議会 新井健太郎氏・大洞諄也氏 法人ボランティア2名



| 5月21日（土） | 5月22日（日） |
|----------------------------|------------------------------------------|
| 講義Ⅰ「青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動」 | 講義Ⅳ・演習「各施設の特性に応じたプログラムに対応するための知識・技術等を学ぶ」 |
| 講義Ⅱ「ボランティア活動の意義と心構え」 | 講義Ⅴ・演習「応急手当など救命救急に必要な知識や技術」 |
| 説明Ⅰ「ボランティア活動の内容を知る」 | ※各自、別日に居住地の講習を受講 |
| 説明Ⅱ「法人ボランティア制度についての理解」 | |
| 講義Ⅲ「青少年教育施設におけるボランティア活動」 | |

講義Ⅰ「青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活

グループワークをとおして、幼少期に体験した遊びについて意見交換を行い、どんな体験が記憶に残り、将来必要な力となるのかを考えることができた。

幼児期には自然と触れ合う体験、小学校高学年になると自然の中でのダイナミックな活動を行うなど、子供の発達段階に応じた体験活動が必要だと感じた。

講義Ⅱ「ボランティア活動の意義と心構え」

どんなにAI技術が進化したとしても、ボランティアは人間にしかできないと感じた。だからこそ、ボランティアセミナーを受講している私たちにとって必要なことは何かを考えることが大事だと感じた。また、ボランティアをするのは「その人の自由」であり、逆にボランティアしないのも「その人の自由」であるということを知り、自分のペースでできるときにボランティアを行いたいと思った。

ボランティアは難しいと思う人もいるかもしれないが、ボランティアに決まったものではなく、何でもボランティアになり得るということを知った。ボランティアは自分自身の考えによって始める活動なので、自分に合った活動を見つけていきたい。

講義Ⅲ「青少年教育施設におけるボランティア活動」

青少年教育施設が何のためにあるのかを知り、子供たちだけではなく、私たちも一緒に成長したいと感じた。

ボランティアは先生でも、親でもない立場であることを自覚して取り組む必要があると感じた。どのようなことができるのかを考えて、ボランティア実践したいと思う。

講義Ⅳ・演習「各施設の特性に応じたプログラムに対応するための知識・技術等を学ぶ」

各プログラムの危険性について考え、安全に活動を進めるための注意事項を知ることができた。

オンラインではあったが、キャンプ場の様子・薪割り・火おこし等については実際の映像と解説で知ることができた。乗鞍がどういう場所なのか理解できた。

講義Ⅴ・演習「応急手当など救命救急に必要な知識や技術」

各自居住地の消防署で実施される普通救命救急講習を受講する。受講後、終了証をメール添付で提出し、ボランティアコーディネーターが確認する。

説明Ⅰ「ボランティア活動の内容を知る」

法人ボランティア2名から、アイスブレイクの意義や場面に合わせたアイスブレイクについて説明を聞いた。初対面の人同士が会うときに緊張をほぐすためにアイスブレイクを実施し、また、その後の進行がスムーズに行うことができるよう活動内容を選択していることを知った。

国立乗鞍青少年交流の家で行われている事業で、どのようなボランティアを行ったのか、法人ボランティアから画像を交えた話を聞くことができ、事業やボランティア、また乗鞍青少年交流の家をイメージしやすかった。

説明Ⅱ「法人ボランティア登録制度についての理解」

詳しく説明を聞き、法人ボランティア制度についてよく分かった。日程が合うものを見つけて積極的に取り組みたいと思った。

オンラインでの実施となったが、多くの大学生、高校生の参加があり、当日のグループワークでは活発な意見の交換が見られるなど充実したセミナーとなった。法人ボランティア登録後、当施設またはそれ以外の施設等におけるボランティア活動の充実はもちろん、他のボランティア・職員・利用者等との関わりの中でたくさんの学びを得てほしいと考える。